ゆとりある
福祉社会を
実現しよう！

たすけあい

2011年8月号
No.465

発　行　栃木県労働者福祉協議会
編　集　共同編集委員会

全労済栃木県本部代表者会議並びに栃木労済総代会開催のご報告

　七月二十九日（金）にホテル東日本宇都宮において、全労済栃木県本部第二回代表者会議および第五三回栃木労済通常総代会が開催されました。

　本会議では、経営委員会が提案した議題に対して、総代定数一二〇人のうち、総代九十七人（委任状十八人）の皆さまの真摯な討議を経て、提案した全議題が承認されました。

　※生協法改正により、二〇一〇年度から、全労済栃木県本部代表者会議と栃木労済総代会の二部構成になっています。

　今年度は、中期経営政策の第二フェーズにあたり、二〇一一年度～二〇一二年度栃木県本部活動計画が策定されました。

　今後「二〇一三年度までに実現する全労済の姿」の達成に向けて、取り組みを進めていきます。

　また、任期満了に伴い役員改選が行われ、新しい役員体制でスタートします。

代表者会議表彰について

　代表者会議において、二〇一〇年度、特に顕著な活動をいただいた地区運営委員会および協力団体について表彰を行いました。表彰地区および表彰団体は左記のとおりとなります。

一．地区運営委員会
　芳賀地区運営委員会
　佐野地区運営委員会

二．協力団体（敬称略）
　芳賀通運労働組合
　全建総連栃木県建設労働組合
　県南地区
　三菱重工精密鋳造労働組合
　コマツユニオン小山支部
　朝日カーメンテナンス㈱労働組合
　栃木一般平和タクシー支部
　由倉工業労働組合
　MEMC労働組合
　日光市職員労働組合
　オートテクニック労働組合

　会場では東日本大震災の被害の状況や全労済の対応について、DVDや写真パネルでの報告がされました。また、被災された皆さまへ募金を募り、六万六千九百七十七円のご協力をいただきました。

2011年度～2012年度栃木県本部活動計画基本方針

1．生活者のくらしを守る保障の生協としての社会的責任と役割を最大限発揮し、共済の普及と事業の拡大をめざします。
2．「障がい・介護保障」という新しい保障領域を加えた、新たな「生活保障設計運動」の定着をはかり、一生涯にわたる共済利用を促進する活動を展開します。
3．全労済業務革新による業務品質のさらなる向上をはかり、組合員の信頼と満足度の向上をめざします。
4．国際協同組合年に向け「労働者共済運動」のさらなる浸透と発展をめざした事業推進活動を展開します。

中央労働金庫『住宅に関わる“知っ得情報”』

【第5回】様々な住まいの違いについて(戸建住宅 編)

新築戸建住宅の住まいを考える場合、完成した住宅を購入する「建売住宅」と、建主の要望にそって設計から計画しつくる「注文住宅」に分けられます。

建売住宅の利点は、予算計画が確定できるとともに、建物が既に完成しているため本人や家族が実物を確認することができることです。周辺環境、間取り、仕上や設備仕様などが気に入った場合、購入し、すぐ居住することができます。土地購入や設計の打合せなど、時間や手間をかけずに短期間で住むことが出来るのが大きな特徴といえます。建売住宅の注意点は、基礎や土台、柱・梁など構造部分の施工の信頼性です。壁・天井内に隠れてしまっているので完成時には確認しにくいからです。・管理者や第三者による検査や確認がしてある建物が安心でしょう。また、購入者の住まいに対しての要望が住宅に反映されていませんので、自分たちの生活スタイルを建物にあわせて生活しなければならず、多少住みにくさをかんじることも出てくるかも知れません。注文住宅の利点は、本人や家族の希望にそって建てられることです。依頼先は、主にハウスメーカー・工務店・設計事務所が考えられます。依頼先の選択により住まいのつくり方や内容が大きく異なってきますので、自分たちの望む住まいをどこが実現してくれるか、それぞれの特徴を見極めることが重要です。十分に内容を調べ、納得してから依頼しましょう。以下、依頼先の主な特徴です。ハウスメーカーの場合は、一般に大手企業として信頼性があり、製品開発力や品質・施行管理が行き届いています。ただし、メーカーの中には独自の構法を採用していたり計画から規格プランを基に対応するなど、注文住宅とはいえかなりの制限・制約がでる場合もあります。また、営業経費などにより価格が高くなることや建築後に増築ができない構法もあり、注意が必要です。工務店の場合は、地元密着で信頼を得た施工を特徴としています。最近はフランチャイズ加盟などで、いろいろな個性のある仕様で他との差別化を図っています。設計は外注する場合が多く、どうしても設計より施工に重点を置いた住まいづくりの傾向があります。施工しやすさや効率が優先されがちですが、営業経費は少ないのでコストは低く抑えられます。職人の技術面でバラツキが出やすい傾向もあります。施工した住宅を見学するといいでしょう。設計事務所の場合は、依頼者の要望を十分に反映した住まいづくりが可能です。住宅設計を主体とした、経験豊富な設計者を選びましょう。ただ設計者にもそれぞれ個性があり、依頼者と相性のいい設計者を選択する必要があります。また、設計には一定の期間と費用がかかることも確認しておきましょう。十分に打合せをした納得の住まいは、使いやすく愛着のある、居心地よい住まいになりますが、要望が膨らんでくると、工事費がかさみますので注意が必要です。

執筆　高橋 充(一級建築士)

中央ろうきん 10th Anniversary
ありがとう 感謝を支えに
暮らしをサポート

〈中央ろうきん〉の住宅ローン
このチラシについての詳しい内容は、お近くの〈中央ろうきん〉営業店でお問い合わせください。

体験型の生産者交流企画が行われています

とちぎコープ

とちぎコープでは、「日本を、食卓から元気にしたい。」のメッセージをもとに、組合員と生産者が交流する機会を設けています。

●「那須山麓土の会」と長年継続して行っている「生産者交流会」は生産者の立場を知ることや食べることの大切さ、子どもたちの生きる力を育てることを目的に取り組んでいます。今年度2回目の8月7日は、竹の食器作り、枝豆の収穫、川の生き物調査、流しソーメン、手巻き寿司作りを行います。

●足利センターブロック主催の「田んぼの学校」は足利市役所農務課、NPO法人「名草里山の会」の方々の協力をいただきながら今年から取組みを始めました。初回は、里山の会代表から名草地区の歴史などの興味深いお話しをお聞きした後、全員で田植えを体験、2回目の7月10日は川の虫の観察会をおこないました。「田んぼの学校」の様子や、稲の成長具合については、足利・名草自然塾のホームページ・ブログでも紹介されています。
http://ansf.cocolog-nifty.com/blog/

●JAおやま青年部との共催「あぜ道サミット」も田植えから稲刈りまでの年4回の企画に13組の家族が参加しています。

足利　田んぼの学校

那須山麓土の会　田植え

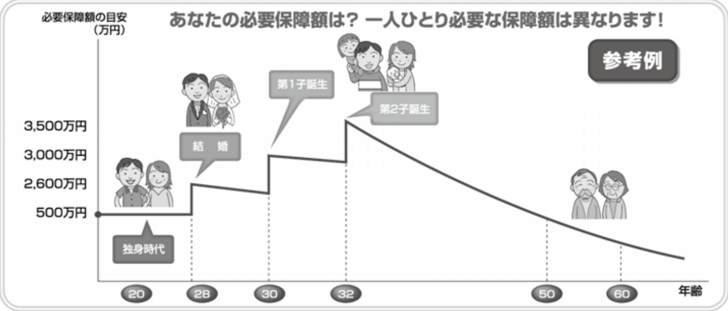
全労済 保障設計のポイント【遺族保障編】

保障設計の概容

前回号で、「保障」は、公的保障や企業内保障の内容を踏まえ、足りない部分を私的保障（共済・保険）でまかなうということ。必要な保障は、生活環境に応じ変わるので、生活環境が変化した時には、保障の見直しが必要になり、定期的に見直していくことで、理想的な加入状態を保つことが出来るということをご紹介させていただきました。

「定期的な見直し」とは、いつ見直すことをいうのか？」全労済では、ライフイベントを迎えたタイミングでの保障の見直しをお勧めしています。ライフイベントとは「結婚や出産」「住宅の取得」「退職」等、人生が大きく変わる出来事のことです。ライフイベントを迎えた時は必要な保障も大きく変わるため保障設計を行うには、絶好の機会になります。

ライフステージと遺族保障



前回、右のグラフで必要保障額はライフステージに応じ変化するということをご紹介しました。

そもそも「どうして必要なのか？」今回は「遺族保障」の保障設計のポイントをご紹介します。

「遺族保障とは？」

はじめから、答えを言ってしまえば、「遺族保障」は万一の時に、残された家族や、パートナーの、「その後の生活環境を維持すること」を目的とした保障です。

「遺族保障」の保障設計では、「今、自分が死んでしまったら、残された家族の生活水準は維持できるのか？」を考えます。

また、グラフでは第２子が誕生した時点で必要保障額がピークに達していますが、これから子供が成長していき、教育資金が必要になること、言い換えれば、将来の生活に備えるための資金として、遺族保障を手厚くする必要があります。

遺族保障への備えはまとまった共済金（保険金）を確保できる生命保険（共済）で備えるのがお勧めです。

全労済ではこくみん共済の「総合タイプ」や「生きる安心タイプ」が該当します。

ZENROSAI NEWS

もしものとき、
本人とご家族の
大きな支えが新登場。

NEW 生きる安心タイプ

安心して生きていく。自分も、家族も。

こくみん共済

個人定期生命共済・こども定期生命共済・熟年定期生命共済・傷害共済・終身生命共済・個人長期生命共済

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて各都道府県生協の組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

保障のことなら 全労済
全国労働者共済生活協同組合連合会

ここに記載されている内容は、共済商品の概要を説明したものです。お支払い条件等の詳細については「ご契約のてびき（契約概要・注意喚起情報）」等を必ずご覧ください。

第五期（前半）福祉リーダー塾開催される

労働者福祉運動の新たな創造をめざして「第五期（前半）福祉リーダー塾」が労福協東部ブロック協議会主催により七月一日〜二日にかけ静岡県の東レ総合研修センターにおいて塾生二七名を集め開催された。

オリエンテーションで「福祉リーダー塾」がめざすもの。第一講座では中央労福協高橋事務局長から「労働運動と労働者福祉運動の理念と歴史」について、第二講座では連合山本副事務局長から「ビジネスユニオニズムからソーシャルユニオズムへ」題し講演を受けた。二日目は、第三講座として、「先駆的事例から理論と実践を学ぶ」と題し、京都労福協の藤氏・いきいき福祉会専務理事の小川氏から後援を受け、最後に山口福祉文化大学教授の高木氏より「労働者福祉の新たな展開を考える」と題し講演を受けた。以下栃木県の参加者の感想です。

労働者自主福祉事業団体としての役割について

全労済栃木県本部
上野匡之

労働者福祉運動の歴史を学ぶ中で、改めて「相互扶助（助け合い）」の精神の必要性ならびに協同組合経済（労働者自主福祉事業）の果たすべき役割について再確認させられました。

労働者自主福祉運動の根幹をなす相互扶助の精神も市場経済の中では、どちらかと言えば気宇砂存在として位置づけされていたかもしれません。しかしながら、甚大な被害を及ぼした「東日本大震災」の影響を受ける中で、助け合うことの必要性を多くの方が知ったかと思われます。そのことは相互扶助の精神が活かされる労働金庫や全労済などの協同組合経済としての役割や拡大が今後ますます重要視され、事業体としてその期待に応えられる活動が求められると思われます。

現在、全労済では、防災意識の向上を含めた住まいに対する生活保障設計運動として「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を展開しています。この運動を展開する初年度に、「東日本大震災」が発生しました。災害調査員として、日々被災された組合員宅の調査をおこなう中で、栃木県内における災害に対する準備や住まいの保障に対する意識、普及の低さを感じています。東日本大震災を通じ、この運動の社会的意義・責任を再確認しました。

全労済は生命保障から損害保障までトータルに保障できる事業体であり、組合員の保障に係る様々なニーズに応えられる強みがあります。この強みを活かし、「豊かで安心できる社会づくり」を実現させるためには、メンバーシップという枠を超えた活動が必要であり、そのためには労福協を中心とした労働者自主福祉事業団体の更なる連携が必要不可欠であると考えます。

労働運動・労働者福祉運動の理念・歴史の感想

中央労働金庫
宇都宮支店
根本紀暁

「生活物資をみんなで調達する」第二次大戦直後、食べものや生活物資が少なかった時代に労働者の生活必需品をみんなで調達しようと、労働組合が生活協同組合などと連携し、暮らしの安定を目指した運動母体を結成しました。これが中央労福協の前身、中央物対協です。そのようにして結成された労福協と労働組合がベースとなり、質屋と高利貸しからの開放をめざした「労働者の労働者による労働者のための銀行」として労働金庫が全国に誕生していきました。また、共済事業では新潟での大火災が起きたときに全国の労働組合の協力で共済金の給付が迅速に行われ、労働者共済事業の評価が高まりました。このことで各県での共済事業が本格化していき、全労済が誕生していったそうです。労働金庫と全労済の誕生の歴史に労福協や労働運動との強い繋がりを感じることができました。

また、「労働金庫に預けた一〇〇万円と他の銀行に預ける一〇〇万円は同じではない」という話がありました。労金に預けた一〇〇万円は組合員の住宅ローンや教育ローンなどに貸し出されるなど使われ方が透明で血の通った温かいお金ですが、他の銀行に預けたお金は、使われ方が様々で子会社のサラ金業者に融資され、組合員が借りて高利で苦しむかもしれません。この話から労働金庫が皆様からお預かりしたお金は「困ったときにはお互いさま」の精神が生かされていることが実感できました。

今回、学ばせていただいたことを自分だけのものとせず、「福祉はひとつ」という労福協の理念で労働者福祉運動を広げて生きたいです。

連合栃木わたらせ地域協議会

わたらせ地域協議会は、二〇〇五年十二月に、足利地域協議会と安佐地域協議会を再編し設立しました。

十四産別、四十三単組、約六千名の組合員で構成しています。構成組合の多くが地場企業と中小企業という特色をもっています。

行政区域は、足利市と佐野市で他の地協と比較して比較的狭いエリアとなっています。

わたらせ地協は、組織局・政策局・労働局のいずれかに幹事が所属して、活動の企画をし、その案を幹事会で協議をして、活動を進めています。

その活動の一部を紹介させて頂きます。

政策・制度要求と提言

組合員の市に対する意見や要望と連合栃木の地協基準、そして地協役員から出された意見をもとに、約三十項目の要求書を作成し、足利市と佐野市に、「政策・制度要求と提言」を九月に提出し、十一月に地協側から地協役員と単組代表が、市側から市長と各部長が出席し回答・交渉を実施しています。

終了後に、市長を交えての懇親会を開催し、回答・交渉では、聞けない本音がうかがえる意見交換をしています。

失業者村もちつき大会

地域の労働団体として、失業している方の支援活動を目的に、佐野地区労と共催で「失業者村もちつき大会」を開催し、つきたての餅と豚汁などをふるまい、

また、労働相談や生活相談も実施し、失業者の皆さんを激励と支援をしています。

花火大会会場の清掃活動

一〇〇年以上の歴史がある足利花火大会は、渡良瀬河畔で開催されますが、毎年四十万人を超える観覧者が関東一円から集まります。

その翌日の早朝に、市内の企業や団体などと一緒にわたらせ地協も会場の清掃活動に参加し、地域に貢献をしています。

労福協

働く人の生活相談センターなんたい
連合なんたい地協事務所に開設

「相談センターなんたい」は、連合栃木なんたい地協と労働金庫鹿沼・日光支店および全労済宇都宮支所、労福協の四団体による準備会での協議を経て、本年の三月二日に設立総会が開催されました。

その後、大震災の影響等で専用電話手続きが遅れたものの、地協の事務所内をお借りして、五月より相談受付を始めることができ、まずは組織内部へのチラシ配布で相談センター開設の周知を図っております。

相談日は毎週月曜と金曜ですがファックスやメールの対応も可能であり、組合員の相談状況をみながら、チラシの新聞折込み等での広報を検討中です。

日光地協当時から続いている無料法律相談は今でも毎月第二木曜ですが、玉木衆議院議員と阿久津秘書に多大なご尽力をいただいており、いつも同席して大変参考になる助言をも授かり力強く感じています。

開設したばかりであり、今後とも関係各位のご指導と連合地協役員のご協力を得ながら、地域に根ざした頼れる福祉拠点づくりへ、温かいご支援の程よろしくお願いいたします。

《相談員・自己紹介》

古河グループ労連出身で元・日光市議会議員の登坂理平です。31年もの長きにわたり議会活動でお世話になった組織の皆様に少しでも恩返しができれば、との思いで相談員を務めさせていただきます。

《連絡先》

日光市今市九九六－一
連合栃木なんたい地協内
働く人の生活相談センター
なんたい支部
〇二八八－二五－七二〇一

絵手紙講座受講生

被災地へ願いをこめて

絵手紙のうちわ贈る

当センターのカルチャースクール絵手紙講座の受講生らが、東日本大震災で被災され、今でも避難所生活をしている人たちへ、復興の願いを込めたうちわを贈りました。

当講座の講師である大和田初子さん（日本絵手紙協会公認講師）が中心となり、受講生がそれぞれの思いを白紙のうちわにぬくもりある絵を描き、言葉を添え作りました。

福祉センターも受講生の思いが少しでも多くの方に届くよう白紙のうちわを提供させていただきました。

受講風景

絵手紙うちわ

福祉センター

夏祭り開催

恒例となりました、福祉センター「夏まつり」を八月五日開催されました。

入館団体の職員たちで夏まつり実行委員会を立ち上げ、入館団体の親睦を深めるため行われる年に一度のイベントです。

十七時二十分、開店。仕事帰りの職員の方々がビアホールに集合。参加者が揃ったところで加藤夏祭り実行委員長（連合事務局長）の開会宣言。

入館団体の代表として伍井労福協会長の挨拶。福祉センターの山田理事長の乾杯の音頭でビアホールが本格オープン。

連日の暑さも伴ってサーバーがフル稼働。コップに生ビールが次から次へとそそがれ、フランクフルト、たこやき、かき氷などの模擬店も大繁盛し本格的なビアホールとなりました。

全員参加のビンゴゲームもあり賑やかなイベントとなりました。

最後にセンター黒崎副理事長の手締めにより閉店。

参加された皆様に感謝するとともに、暑い中、準備や模擬店などを行ってくださった実行委員会の方々にお礼申し上げます。

夏祭り

がん保障の備えは万全ですか？

【主契約】
がんの保障

プラス 特約

ご希望にあわせて必要な特約をお選びください

手術・放射線治療特約
抗がん剤治療特約
長期支援特約
所得サポート特約
特約 コサージュ

＼新登場／
生きるためのがん保険 Days（デイズ）

※詳しくはパンフレット（契約概要）をご覧下さい。

「生きる」を創る。
Aflac

（引受保険会社）
〒320-0964 宇都宮市駅前通り 1-3-1 フミックス STM ビル
アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
宇都宮支社　TEL028-623-0192

（お問い合わせ先・募集代理店）
〒320-0052 宇都宮市中戸祭町 821　県労福センター 6F
栃木ファミリー（栃木労生協　保険部）
フリーダイヤル　0120-839-816

栃木労生協ご利用ください

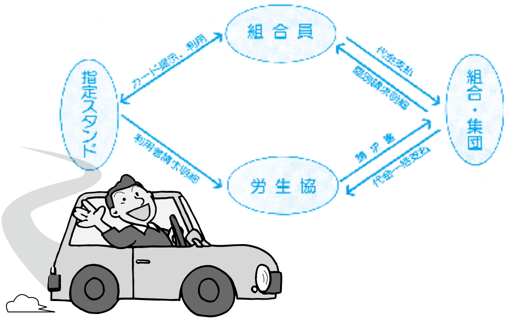
こんにちは、栃木労生協です。月日の経つのは早いもので「あっ」という間に八月になってしまいました。組合員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

栃木労生協は、一般商品とガソリン商品が核となって営業しております。一般商品は、栃木労生協指定店が割賦販売（二〇回まで手数料無料）している商品や栃木労生協ニュースとして回覧方法でお願いしている商品があります。

今日は栃木労生協指定店の「エレガンスショップトコヨ」を紹介いたします。昭和四年創業、ちなみに東武鉄道の開通と同じだそうです。当時は時計、貴金属、メガネ他幅広く営業をしていましたが、時代と共に商品を絞り込み現在は時計ロレックス、モーリスラクロア・シャリオール、など宝飾はトコヨ独自のアンティークデザイン「リコリコ」は、リング・ペンダント・ブローチと人気商品となっております。現在の店舗が二〇年近くなりますのでリニューアルオープンする事となり七月から八月二八日まで閉店セールを行っております。七〇％～二〇％引き（一部除外品あり）ぜひお立ち寄りください。素敵な商品がお待ちしています。また、外商が組合にお邪魔する事もございます。ぜひご利用ください。

栃木労生協のガソリンカードは県内どこでも同一価格にて給油ができます。また家族カードもありますので大変便利です。ガソリンカードの申し込みは、組合の担当者の方に、お話しください。家族カードの申し込みも同様です。「あっ、小銭が足りない」「おさいふ忘れてきた」大丈夫です。栃木労生協のガソリンカードがあれば、給油、洗車ができます。パソコンで『栃木労生協』を検索してみてください。ホームページに現在のガソリン価格、利用できるスタンド、指定店などが検索できます。お申込みお待ちしております。

利用の仕組み



特集　道の駅

第四弾（那須町）道の駅 東山道伊王野

道の駅 東山道伊王野は那須町の南東部に位置して国道294号線沿いにあります。豊かな自然と義経伝説の歴史が残る東山道。そこにある大きな水車が目印の道の駅です。

「道の駅　東山道伊王野」の特徴は、周辺の豊かな自然、その恵みとも言える採れたての農作物の販売、直径2メートルの巨大石臼で挽いた地粉を使った手打ちそばと言えます。

東山道伊王野のシンボルと言える水車は大きい水車が直径12メートル、小さい水車が直径5.6メートルあります。この水車を見るだけでも一見の価値あり

です。この水車は、実際にそばを挽いていますが、お食事処「水車館」で食すことができます。打ちたてで、のどごし抜群のそばを是非食べてみてください。

また、物産センターには、地元農家の方々が作った農作物が販売しています。開店時間の8時30分には、すでに行列が出来ているほどで、首都圏の半額以下の値段もさることながら、その新鮮さが評判になっています。食べて、お土産を買って、最後に、隣接している自然そのままの親水公園を散策してみてはいかがでしょうか。お腹も心も大満足になっているはずですよ。